

令和6年度 苫小牧市図書館協議会定例会

令和6年5月22日（水）午後2時
苫小牧市立中央図書館 2階講堂

【議事】

○議 長 では、最初に、議事（1）新しい5年間の図書館運営計画について、説明をお願いいたします。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

○議 長 はい、ありがとうございました。

今の説明について質問等ある方は挙手願います。

○委 員 資料の2ページですが、新規の利用登録者数の現状値が1,188人となっていますが、資料の5の新規利用者数を見ると、全然数字が違います。資料5は中央図書館だけではないなどの理由があるのでしょうか。

○館 長 資料5は図書コーナー含めた全体の数字になります。

○委 員 ということは、この中央図書館だけの数字というのは、この資料5では読み取れないものになるんですね。

それと、資料2の5ページですが、1-2の郷土行政資料の収集の数字よりも1-3のデジタル化点数の数字のほうが増えていないので、ここのデジタル化点数というのは、最初からデジタル化してあるものは含まないという理解でよろしいでしょうか。

○館 長 はい。

○議 長 ほかどうですか。

今、郷土行政資料と出ていましたが、郷土行政資料のタイトルなどは調べられるのでしょうか。

○副館長 はい、苫小牧市で各種計画や事業実施報告書、市議会の議事録などを公開していますが、そちらを図書館にいただき、図書館資料として活用できるようにしています。

○議 長 そのタイトルの一覧みたいなものはありますか。

○副館長 蔵書数が膨大になるので一覧はありませんが、検索をしていただくと、資料の保管場所が「行政資料」となっているものがありますので、それを目安にいただければよいかと思えます。ただ、保管場所別での検索は行えないので、行政資料の中でこういうものはありませんかというふうにお問い合わせいただきましたら、郷土参考資料室のスタッフのほうで対応可能です。

- 議 長 分かりました。ありがとうございます。
ほか、ありますか。
- 委 員 もう一点、先ほどのところで、郷土行政資料のデジタル化ですが、今現在既に1万点をデジタル化されていて、2028年までの6年間の差を計算すると200ぐらいなので、年間でいうと40冊ぐらいデジタル化する計算です。この1万という数字に対して40というのはかなり小さいので、デジタル化する資料がもう僅かなので、これぐらいの数字目標だという理解でいいですか。今回のこの目標値というのは、今までと比べると随分少ないなという印象があるので、もうほぼデジタル化が終わっているということですかという質問です。
- 館 長 はい。今までの年数での蓄積によって多くをデジタル化してきている状況ではあります。ただ、ほぼ終わっているかというよりも、大体終わっているというイメージを持っていただけたらと思います。
- 委 員 本をデジタル化するわけですね。新たに出てきたものをということですか。
- 事務局 少し補足させていただきます。この1万325件というのが、直営時代に手がけた資料を含んでおりまして、新聞などの図書館で所蔵している紙媒体のものをデジタル化いたしました。ただ、資料もたくさんあるものですから、その整理も含めて、その当時できるものはデジタル化した形になります。その上で、例えば著作権の関係もありますから、郷土行政資料といえども、図書館で勝手にデジタル化できない資料もございますので、今あと何点が残っているかという部分は、資料の整理もしながらというところになりますのでお示しはできないんですけども、残りのデジタル化の部分というのも蔵書の整理をかけていった中で増えていくものと考えています。
- 委 員 既にある本など紙媒体を電子化するのであれば、今現在電子化されていないものが大体何冊ぐらいあって、今後何年間で全て完了するので、この五、六年間では200ですよということでしたら分かりますが、それがそうではなくて、今後もどんどん出てくるものなのか、その辺が分からなかったのが、この目標がこれでいいのかどうかというのが判断できなかったということです。
- 議 長 ほか、いかがですか。
職員の話で、ここ最近課題として挙げられている定着という部分ですが、夜の開館、土日の開館というのがなかなかきついなど、いろいろな事情で辞めた方がいるという話を前に聞きました。そういう、入ったけどやっぱりいなくなる人の数は、これからも頻繁にありそうですか。
- 館 長 ないようにとは思っていますが、その可能性は否めないと思っています。ただ、縁があってこちらの図書館で働いていただくことになったからには、長

く働いていただきたいなど、私自身は思っています。

○議 長 職員のこういう待遇を改善したいという図書館側の課題等がありますか。

○館 長 やはり女性が多い職場ですので、いろんな年代によってライフワークが変わります。結婚や出産等のライフワークに合わせた働き方、例えば弊社ですと育休、産休をしっかりと取れるようにしています。あとは、フルタイムではなく、シェアでもお仕事ができるという、その方のライフワークに沿った働き方ができる環境を、今後も引き続きつくっていきたいと思っています。また、現状もライフワークに沿った形で環境づくりをしていますけれども、やはりお子さんが大きくなってくると学校の授業やイベント等があって、土日、祝日の勤務が難しいスタッフが出てくるところもありますので、そのあたりの兼ね合いが難しいということが課題であると感じています。

○議 長 短時間勤務を希望する方は、結構多いですか。

○館 長 そうですね、それなりの比率はいます。勤務体制の希望は可能な限り対応していますけれども、条件が合わないというときもあります。

○議 長 それがかなくなってくと辞めませんよね、きっと。

○委 員 指定管理というのは、中央図書館だけですか。全部ですか。

○館 長 はい、会社は違いますけれども。

○委 員 2ページの新規利用登録者数ですが、カードを作るのが中央図書館でもコミセンの図書館でも同じことだと思いますが、違うのでしょうか。データベース上は同じ登録をされていると思います。どこでカードを作ったかということとは関係あるのでしょうか。

○館 長 今回のこの統計では、どこで作ったかというところで統計は取っています。

○委 員 図書館協議会は苫小牧市全体ですよ。なぜ全体の数で目標を立てずに、中央図書館で新規に登録した人を目標に掲げるのか。それがちょっと理解できなくて。資料5のほうの数字を使って目標を立てるのが正しいのではないかなと思います。

○事務局 図書館協議会は、中央図書館長の諮問機関になりますので、厳密に言えば中央図書館のみ、というお話になるかと思います。ただ、市内の図書コーナーともシステムでつながっていますし、もちろん使っている方は苫小牧市全域の方々ですので、図書コーナーのお話も言及されていくとは思いますが、先ほど指定管理のお話がありまして、中央図書館の指定管理者と図書コーナーの指定管理者が違うものですから。

○委 員 では、この図書館協議会の範囲というのは中央図書館に関してのみを考えればいいのですね。

○事務局 その分けがなかなか難しい部分です。ただ、委員にご指摘いただいた、全体で見ていったほうがいいのか、というご指摘ももっともかと思えますし、

全体の数字というところのほうが、苫小牧市全体の読書活動、図書館活動という部分では分かりやすいかなというところもございますので、一度持ち帰らせていただければと思います。

- 委員 分かりました。そこが分かれば大丈夫です。
- 議長 私はよく自宅の近くの図書コーナーで中央図書館の本を取り寄せて借りますが、コーナーで借りるものは中央図書館の貸出冊数には入らないのですか。
- 館長 コーナーの貸出冊数になります。
- 委員 そうなると、9ページの児童1人当たり5.5冊というのも、中央図書館で借りた冊数ですか。
- 事務局 いえ、そこがやはり整合性がとれてない部分になります。
- 委員 こっちは全体ですか。
- 事務局 はい。館別の貸出数を人口で割るという数字はあまり意味がなく、全館の年齢別貸出冊数を使ったほうが良いと考えていますので、9ページには全館の数値をお示ししています。計画内でここでは全館、こっちは数字は中央のみ、となると整合性が取れませんので、そこは整理させていただきたいと思えます。
- 事務局長 分類の仕方など、前回からいろいろなものが引き継がれているかと思えます。ですから、こういったときにいろんな意見を出していただくと、我々も持ち帰りまして、今後に向けてよりいい数字で出せるような整理をしたいと思えます。
- 委員 意見をいいですか。この目標値を立てるに当たって、前回の5か年計画の評価の際に皆さんから意見が出たと思いますが、すべての目標が上昇傾向の目標になっています。人口が減っていく中で、なぜこの上昇で目標を必ず立てなきゃいけないのかというのが疑問なのと、2022年をベースにしていますが、資料5などほかのいろんな資料を見ると、2020年にたまたま数字が大きい年もあるんですが、それにもかかわらず、2022年をベースにしてそれよりも大きな数字を立てているので、本当に達成できるのかなという心配がある目標もあります。その辺はそうしなければいけないものなのかどうかということについてコメントいただきたいです。それと、11ページでSNS発信の充実とありますが、このSNSというのは具体的にどのサービスなのでしょうか。
- 館長 旧ツイッターのエクスです。あとはホームページでも情報の発信を行っています。
- 委員 そうしたら、公式なものはツイッターですね。その充実を図っていくということですね。
- 利用者を増やすということで、この計画に載っていませんのでただの意見で

すが、私自身、小学生だったときには札幌にいましたが、札幌の中央図書館に行ったことが小学校6年生まで一度もありません。家の近くではなかったということもありますが、そういう存在を知りませんでした。

子どもだったので、行動範囲が狭く、図書館というと、自分の中では学校の図書室が図書館でした。苫小牧市の小学生も恐らくそういうお子さんがたくさんいると思います。移動図書館というサービスはもちろんありますが、苫小牧市の中央図書館は大きい図書館なので、ここに初めて来たら、多分小学生は、こんなに大きい図書館があったのかということで感動すると思うので、ここに足を運んでもらう機会というのがあるとすごくいいなと。それをきっかけにして、本が好きになる子いるのではないかなと思います。

ただ、子どもたちを連れてくるといってバスなどは現実的ではないので、例えば小学校等に遠足でここに来てもらうような働きかけなどをしてみることは難しいのでしょうか。

○館長 今、授業で図書館見学というものがあっています。

○委員 それは計画の中に載ってないような気がします。

○館長 計画には載せてはいませんが、普段の図書館業務としてその見学を受け入れるという形で行っています。

○委員 分かりました。載っていないだけということですね。そういうのもすごくいい取組だなと思うので、せっかくやっているのであれば計画に載せて、もっと積極的にやってもいいような気がします。

○議長 休日に図書館に来て、小学生や幼稚園のような子を見かけません。ですので、自分の学校の生徒たちもどれだけ行ったことがあるのかと思ったことがあります。私も出身が札幌ですが、札幌の図書館がどこにあるのかも知らなかったですし、に行ったこともありませんでした。ですので、案外中央図書館は遠い存在なのかもしれませんね。

○委員 保育園の立場で、保護者の方が図書館に全く興味を示さないと、子どもたちはますます来る機会がないと思います。保育園としては、図書館自体がすごく開放されているというイメージがあって、お弁当だけを食べたいとか、雨の日には利用させてほしいとか、そういういろんなことを受け入れていただけます。お部屋が埋まっても、サンガーデンの一部の椅子のところによければどうぞとか、すごく温かく受け入れていただけます。

すごく小さい子は迷惑をかけたら申し訳ないので、年中、年長ぐらいだったら図書館を一旦見学させてもらったり、施設を使わせてもらったりというふうに、図書館はこういうところだよということを、子どもたちにも触れさせる機会は設けてあげたいなと思っていますし、それを機会に図書館というところがあることを知るチャンスだし、保育園の立場からしても、こういうお

話を聞いているとますますそこをやっぱり意識して組み込んでいくというのも大事だなと思います。

保育園にもたくさん絵本がありますが、いつも手に届く絵本以外の場所へわざわざ行って、図書館という場所があつて、保育園にもない絵本があつたり、絵本以外にも楽しいイベントがあるとか、そういうことをもう少し知らせていけたらいいなというふうにお聞きしながら感じました。

○議 長 ぜひ連れてきていただきたいですね。絵本の山を見ると、子どもは目をぎらぎらさせて感動しますので、そういうのを味あわせたいですね。

○委 員 はい、そうですね。あと、青空としょかんも利用させてもらったことがあります。天気がよくないと連れてこられないこともありますが、平日の昼間に企画していただいているので、行事などが重なっていなければ行くことがあります。青空としょかんにはいろんなコーナーがあつて、保育士にとっても読んで聞かせるだけじゃなくて、子どもの反応を見ながら自分も絵本を読んでもらうという機会はなかなかないものですから、すごく貴重な体験をさせてもらって、本当にそういう企画とかがありがたいなと日々思っています。そういう企画があつたらこちらとしてはすごくありがたいし、また利用させていただきたいなと思っています。

○委 員 私が感じたのは、先ほど委員が言ったとおり、人口が減っていくのに借りる本が増えていくという目標は、よほど頑張らなければいけないなと思いました。

○委 員 目標はそうやって上昇傾向で立てなきゃいけないものなのかどうか、コメントいただければ。

○館 長 やはり、私たちも高い目標を持って運営していきたいという思いがあります。計画にお示しする中で、人口が減っていくのはもちろんですけども、やはり5か年計画で下がっていきますというのをお示しするのはちょっと消極的かなと考えています。下がっていくというのは、努力しないと見られかねないところも、運営する立場としては一つ考えるところです。下がる目標を見た方が、わざわざ何で下がる目標を立てるのかと思われることもあると思います。

○委 員 わかりました。努力に期待します。

○委 員 この利用者満足度なんて95.7%なので、苦し紛れに95.8で0.1%増やしたなというのは分かりますが、個人的には目標値は切りのいい95で、それ以上はもう誤差の範囲ではないかなと思います。

○委 員 私も、人口が減っていくのという部分は、この数字を見たときには感じました。ただ、小学生やそれ以下のお子さんたちがいる家庭を見ますと、以前よりも両極化を感じています。図書館に子どもたちをしょっちゅう連れてき

て、いろんな本を手渡せる家庭もあれば、なかなか図書館に家族で足を運ぶことが難しくなっている家庭というのも増えてきているのを感じています。ですので、人口が増えたから必ず冊数が増えていくという単純なものではなくて、社会的な課題も変わってくる中で、子どもたちや大人ももちろん、それからもちろんヤングの方たちも、1冊でも本のよさを知っていき、1冊でも手に取るというのを目標に掲げていくというのは大事なことだと感じています。

議長も、多分そういういろんな家庭を見ていらっしゃると思いますが、私も仕事柄いろんな家庭と関わる機会があり、それこそ絵本が1冊もない家庭だったり、絵本があってもお菓子が上に乗っていてジュースがこぼれていたりなど、とてもいい読書環境ではない家庭というのが増えているような気がしています。そういうのを感じるので、目標値を少しずつでも上げていくというのは大事な事かなと思っています。

○委員 私は苫小牧出身で、中学のときには、ほぼ毎日帰りに図書館へ寄るような子どもでした。昔の市立図書館は、1階に子どものコーナーがあって、2階が中学生以上の大人のコーナーだったので、中学生になって2階に行けるようになって、こんなに本があると感動しました。先ほど、図書館に来たら感動するよとおっしゃっていた。

私も委員と同じで思いで、皆さん、図書館に来たらとても良い経験になるとおっしゃいますが、いろんなご家庭のお子さんたちがいらっしゃる中で、要はお父さんやお母さん次第というところがいろんなところで見えてきます。ですので、そういうところのお子さんがどういうふうに本に親しんでいくのかなというのが少し気にかかりますので、何かできればというところです。それからもう一つ、図書館報というのはどこにありますか。

○館長 「ぱびるす」という図書館だよりで、カウンターにも置いてありますし、ちらし置場にもあります。ホームページでも公開しております、毎月発行しています。

○委員 分かりました。知らないことは、通り過ぎていたら分からないことは結構あります。

それと、やはりいろいろデジタル化していますが、どうしてもそこについていけない方々はたくさんいらっしゃると思うので、そういうところは何か手だてを残していったほしいなと思います。

○議長 絵本も親が全然読んだりしないご家庭もあって、初めて絵本を見たという子も実際にいます。親にそこら辺をしっかりと分かってもらわなければということで、子育てのそういう活動があります。学校もそこが課題だと言っています。では、今度は令和5年度の報告と評価と点検について。議事の2番と3番で

す、続けて説明よろしいですか

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

- 議 長 はい、ありがとうございます。昨年度の事業報告と自己評価を続けて説明していただきました。このことについて、質問、意見等あればお願いいたします。
- すぐに出ないようでしたら、この後、令和6年度の計画を説明してもらいますので、それと併せて質問、意見を改めて伺いますので、今の5年度の話の頭に置きながら、令和6年度の計画に続けて行きます。

<中央図書館長より資料に基づいて説明>

- 議 長 絵本かるたとはどういうものですか。
- 館 長 ノラネコぐんだんなど、絵本のキャラクターのかるたが出ているのでそれを活用した事業です。
- 議 長 わかりました。
- それと、ビジネスマンへの支援というのが、イメージが湧かないのですが、どんな事業なのでしょう。
- 館 長 現在、ビジネス支援コーナーとしてビジネス書を別置していますが、今年度はさらに、ウェブサービスの活用を予定しています。図書館のWi-Fiを使ってアクセスしていただくと、ビジネス書1冊を10分で読めるという要約サイトに行きますので、要約されているものを読んで、そこからさらに興味を持っていただいて、またビジネス書を読んでいただくというサービスを展開していきたいと思っています。
- 議 長 そういうサービスがビジネスの方にどれだけ利用されるのかというのが、全く予想ができませんね。それは令和5年度にはなかったのですか。
- 館 長 令和6年度から実施いたします。
- 委 員 貸出しロボットの導入とありますが、ロボットとはどんなことをしてくれるのですか。
- 館 長 今もアウトリーチでおはなし会を開催していますが、そこに図書館の本とこのロボットを持っていきまして、アウトリーチ先でも貸出しができるような形を予定しています。
- 委 員 ロボットは、動くロボットですか。
- 館 長 いえ、置き型ロボットです。図書カードのバーコードを読み取る機械がついています。

- 委員 ロボットといっても、私がイメージしているロボットとは違うのですね。バーコードリーダーがついた貸出機ですね。
- 議長 移動貸出機みたいなものですね。普段は使われないのですか。
- 館長 普段の図書館でも使えると思っていますので、どんなサービスができるかは考えていきたいと思っています。
- 議長 ほか、どうでしょう。
- 一谷委員 今イメージできている範囲で構いませんが、今年度の事業計画のうち、図書館という空間の魅力向上の、全期間で利用ニーズの把握及び運営への反映とありますが、ニーズの把握というのは具体的にどのような方法で行う予定でしょうか。
- 館長 今まで行っている利用者アンケートや意見箱はもちろんですが、以前実施したウェブアンケートなどを含めてニーズ把握をしていきたいと考えています。さらに運営していく中で把握できるものがあれば、そこからニーズを把握していきたいと思っています。
- 委員 ウェブアンケートはどのくらいの件数が寄せられていますか。
- 館長 以前のときは、数は多くなくて、30件から50件ぐらいだったと思います。
- 委員 ウェブアンケートの内容や寄せられた内容も知りたいなと思っていますので、もし機会があれば教えてください。
- 館長 ホームページのほうに公開しています。
- 委員 見てみます。ありがとうございます。
- 委員 本を借りたときにレシートがついてきますよね。その下にアンケートを取るQRコードを載せたり、何か情報を追加することは、システムを改修しないとできないものですか。
- 館長 今年システム更新がございまして、レシートの活用についても検討しているところです。
- 委員 ではそこに、こちらがその時々に応じた情報や広告を載せることができれば、アンケートの協力をお願いしますということでQRコードとかをつけると回答数も増えるのではないかと思います。
- 委員 すごくいい案だと思いますが、前にも感じていたことで、来館者や利用者のご意見というのは吸い上げやすいかなと思いますが、図書館になかなか足を運ばない方はなぜ運ばないのかという理由をニーズとしてキャッチできると、この図書館の持っている財産がより広く市民の皆様へ知れ渡っていくのかなと思っています。
- ぜひそういう意味でも、ホームページなどから見られるアンケートはすごくいいなと思っていますので、内容にすごく興味があります。いい情報が収集できるといいなと思います。

- 議 長 ウェブアンケートは令和5年度はやっていないのですか。
- 事務局 令和2年度に1度ウェブアンケートを実施していきまして、そこからはやっていませんでしたが、今年度にまた実施予定ということです。
- 委 員 アウトリーチの推進の中で、移動図書館車を用いたアウトリーチサービスとありますが、具体的にどんなサービスがあるのか教えてください。
- 館 長 令和5年度に関しましては、n e p i aアイスアリーナに移動図書館を持っていきまして、そこで貸出しが可能という形で稼働させました。ですので、ニーズがありましたら、市内のいろんな施設に行きたいとは思っています。
- 委 員 それは、移動図書館が来るというアウトリーチサービスですよ。
- 館 長 移動図書館が来るものだけではなく、スタッフが出張でおはなし会をするという事業も考えています。
- また、移動図書館とおはなし会のセットも可能ならば実施したいと考えています。今年度、幼稚園のほうからも出張おはなし会の依頼を2件受けておりまして、今後もいろんな幼稚園や保育園などで、スタッフが訪問しておはなし会をするアウトリーチを考えています。そこにあわせて、うまくいけば移動図書館バスも入れたいと思っています。
- 委 員 分かりました、ありがとうございます。
- それともう一点、「赤ちゃん、絵本のとびら事業」について、赤ちゃんとその保護者の方に絵本をプレゼントするというお話がありました。そのポスターを保育園にも掲示してほしいという協力の依頼が来ていて、どれくらいの方が絵本を交換されているのかすごく気になっていました。せっかくの事業ですので、皆さんに絵本をぜひ手に取って、家庭に持ち帰ってお子さんに読んであげてほしいなと思っているので。
- 事務局 委員がおっしゃっていたのは、生涯学習課で実施している0歳児向けの、いわゆるブックスタート事業になります。今正確な数字は持ち合わせておりませんが、0歳児対象者の7割、8割くらいの方々に絵本をお届けしており、取りに行けない方々にはおはがきを出したり、なるべく多くの方々に絵本に触れていただきたいということで実施している事業です。
- 委 員 ありがとうございます。図書館の事業とはまた違ったのですね。
- 事務局 ほかの自治体ですと、集団健診などでお配りしていることが多いのですが、苫小牧市では集団健診がないものですから、読書施設に誘導したいという思いがありまして、図書館を受取場所に設定させていただいています。中央図書館や各図書コーナーさんにもご協力をいただいて、保護者の方々に絵本を取りに来ていただいています。
- 議 長 ほかはどうですか。
- 委 員 先日知ったのですが、道南バスの路線が変わり、西循環線というのができた

ようです。それに乗ると、結構時間はかかりますが、出光カルチャーパークの前にあるバス停に広域の人たちが来られるということを知りました。少し遠い方々も乗換えなしにバス1本で来られる路線がある、そういう情報の周知も必要だと感じました。そういうのは知らないとそのままなので。

○委員 保育園も、大きいクラスになったら市内のバスなど公共機関を利用して、どこかお出かけしようという企画もします。だけど、中央図書館って中途半端で、時間に余裕がないと無理かなと思う時もあります。今、子どもはバスになかなか乗らないので、そういう機会に少し長く乗って、でも目的地にぴたっと着くということが分かったら、選択肢の一つになるのではないかと思います。こういう子どもの施設などは、やはり知らないと利用しませんし、職員自体がバスを利用しないので、教えていただかないと分からない部分も多いのでぜひそういうことは宣伝してもらえたらと思います。

子どもたちにとっては、バスに乗るということは貴重な体験ですし、公共のルールやマナーを知る機会だと思い、あえてそういう企画もしています。

○議長 実は時刻表の前のほうに公共施設へ行く路線が載っていて、けれど中央図書館はなかったの、道南バスの人に掲載希望を出してみてください。

○館長 確認してみたいと思います。

○委員 運営のことではないかもしれませんが、アンケートを見た限り、クーラーをつけてほしいという要望が必ずあります。人が集まる場所というのは、やはり居心地のいいところに集まりますので、ましてや勉強するのに暑さは大敵ですので、ぜひクーラーの設置をお願いしたいと思います。まず学校などが先だとは思いますが、勉強したいという子どもたちのために、図書館が勉強しやすい空間だということを皆さんにPRするためにも、やはりクーラーのようなものがあつたらいいと強く思いましたし、教育委員会の方もいらっしゃるのぜひお願いしたいと思います。

○議長 昨年度、クーラーはなかったのでしょうか。

○事務局長 もともとそんなに暑い日が多かったということもあり、苫小牧の公共施設には基本的にクーラーがついていません。ここ2年ぐらちょっと暑い日が増えてきているところで、今、教育委員会でもまず学校へクーラーの配置を進めているところです。それから順次公共施設ということになってくるとは思いますが、図書館も大きな建物ですから、家庭用を部屋に1個つければいいというものでもなくて、全体としての空調を考えたりしますと、かなり大規模なことになるかと思えます。建物自体も結構古くなってきていますし、この全体の改修の計画などを含めて、どこでどういうふうにしていくかというのは、まだ今すぐにお答えはできませんが、我々もその辺は課題だと思っています。どういうエアコンがいいのか、部屋ごとがいいのか、全館がいいのか

かとか、そういった調査も当然必要だと思いますし、本当にこれから先の気温の上昇が苦小牧もどうなっていくのかということも当然ありますので。

○議 長 館内のどこに入るかというのもまだ分かりませんか。

○事務局長 今のところ、そういった予算はついていません。

○委 員 学習する部屋だけなどは考えられないですか。

○事務局長 今、学校にスポットクーラーという教室に置くようなものが入る話が出ていますので、そういったものが可能かどうかというのを考えなければいけないのかなとは思いますが。役所内はどうしても予算が次の年度次の年度と、その年が認められなければどんどん後ろに延びてしまいますので、なかなかいつまでにとこのようなお話はできませんけども、我々もその辺は考えながらやっていきたいと思えます。

○議 長 ほか、どうですか。よろしいですか。

それでは、本日の議事について終わります。ご協力ありがとうございました。

《その他》

○委 員 議長から図書館の職員が短期間で変わってしまうという部分についてお話があって、館長のほうからはTRC苦小牧グループとしての対応をお話いただきました。私もよく批判的な意見として、図書館の職員がすぐ変わってしまうということ聞いたことはあります。ですが、職員がずっと継続して長くその職についているメリットというのは、この館の機能だったり、蔵書だったり、図書に関する知識やスキル、それから、経験の積み重ねによる市民の安心感といったことかと思えます。そればかりが必ずしもいいかと言ったら、私はそうは思っていないくて、どこの会社もそうですが、何か人生の転機があればそこでいったんお仕事から離れなくてはならないという状況は、図書館に限ったことではないと思っていますし、それを常に批判的な意見でまとめてしまっ、何とかしなくてはというだけではなく、きちんと引継ぎがされていれば、私はあまり問題がないと思っています。逆に新しい職員の方が時々入ってくることで、新たな視点で図書館を作っていくメリットもすごく大きいなと思えます。実際に、この図書館を時々拝見して思いますが、すごく良いアイデア、事業にしてもそうですし、館の飾りつけだったり、しつらえだったり、それから本棚のアレンジだったり、っていうのも常に新しい視点を感じています。それは、市民にとってすごく嬉しいことですし、訪れる人たちにとっても刺激になっていると思えます。なので、常にそれを悪いことととらえる風潮は、私はあまり好きではなくて、今の図書館を見たときに、私は素晴らしいなと思っていますので今後ともよろしくお願ひします。

閉会 (午後4時)

<出席者>

○委員

松井操人	会長
一谷誠子	副会長
赤川明美	委員
亀山仁美	委員
原口祐子	委員
村本充	委員

○事務局

生涯学習課	河本課長
同	斉藤課長補佐
同	仲世古主査
同	戸澤主任主事
中央図書館	富田館長
同	広瀬副館長

<欠席者>

○委員

和泉雅子	委員
奥村訓代	委員
坂木真吾	委員
八島恵利子	委員